



■「市民の皆さんの応援の力もバネにしたい」と毎週2回、南部小学校体育館での練習にも熱が入る南多久クラブのみなさん。

キャプテンの北島かおるさんは「佐賀県代表として、恥ずかしいような自分達が納得できる試合がしたい。予選突破して、上位を目指し、楽しみながら勝ち進みたい」と抱負を語り、チームをまとめます。

全国大会は、11月6日から8日まで、埼玉県川越市で行われ、64チームが出場予定です。

家庭婦人いそじ県予選で『南多久クラブ』が優勝
11月の全国大会に初出場―応援をヨロシク！

第20回全国家庭婦人いそじ大会県予選で優勝した南多久クラブの全国大会出場が決まり、予選突破に向けた練習が続いています。

いそじとは、五十路のことで、50歳以上のメンバーによる大会。ママさんバレーチームとして好成績を残し、伝統ある南多久町のメンバー9人と監督やコーチ、マネージャーを含め、多久町、西多久町からも応援を受け、13人で結成したのがこのクラブ。県予選は、市内の浦山体育館を会場に7月6日、13チームが熱戦を繰り広げた中、南多久クラブは1回戦からストレートで勝ち進み、全国大会初出場の切符を手に入れました。



市長のWindow



▼市民のみなさんへ

北京五輪と「勝利脳」の作り方

この夏の話題は北京オリンピック。チベット問題などで心配された聖火リレーのゴールは北京のスタジアム。通称「鳥の巣」の異名を持つ会場での開会式は壮大な演出で圧巻だった。絵巻物をひもとくように、数千年に及ぶ中国の歴史を踏まえたストーリーで多彩な演技が披露された。印象的なのは論語だった。「朋あり遠方より来たる、また楽しからずや」という論語の言葉が冒頭部分で登場し、世界中の人々を歓迎した。

世界新記録も続出。水泳のフェルプス選手は史上初の8金メダル。陸上100mと200mではジャマイカ勢が世界新で活躍。

日本選手も頑張った。平泳ぎの北島康介選手は2大会連続の金メダルだ。その勝利の雄叫びは打ち震える武者のようだ。

100mは58秒91の世界新。競り合っても、「他の選手は見ないし、考えない。自分の泳ぎに集中した」と語る。泳ぎながら自分の水かきの回数を数えていたらしい。スタートから50mターンまでは16ストローク。他の選手より少ない水かき数で世界新をたたき出す。200mも五輪新記録で優勝。世界新との差はあと20cmだったという。まさに僅かな差である。

実は北島選手は「勝利脳」訓練もしていたと自ら語る。最強の自分自身へ意識面での強化も怠らなかったのだ。「①ライバルは自分 ②否定言葉は使わない ③最後まで「勝った」と思うな ④一步一步着実型より全力練習で臨め ⑤自分の世界をつくれ ⑥4拍子半のリズムを保て」という訓練だ。そして勝利脳をつくり、自己の能力をフルに出せるように高めていったのだ。

私達もこの勝利脳づくりで、人生というオリンピックで夢実現や自己実現のゴールドメダルをめざしたいものだ。（俊彦）

市長交際費支出状況

▼平成20年度7月分

支出種別	区別	件数	金額(円)
弔慰	今月分	3	18,000
	累計	9	53,000
見舞い	今月分	1	10,000
	累計	3	30,000
御祝	今月分	6	46,020
	累計	22	132,575
賛助	今月分	1	5,000
	累計	5	28,000
激励金	今月分	0	0
	累計	0	0
接遇	今月分	2	9,000
	累計	4	137,500
会費	今月分	2	15,000
	累計	8	53,500
その他	今月分	0	0
	累計	3	11,760
合計	今月分	15	103,020
	累計	54	446,335

◎詳細は市のホームページに掲載しています。

■問い合わせ 総務課・秘書係 ☎75-2115